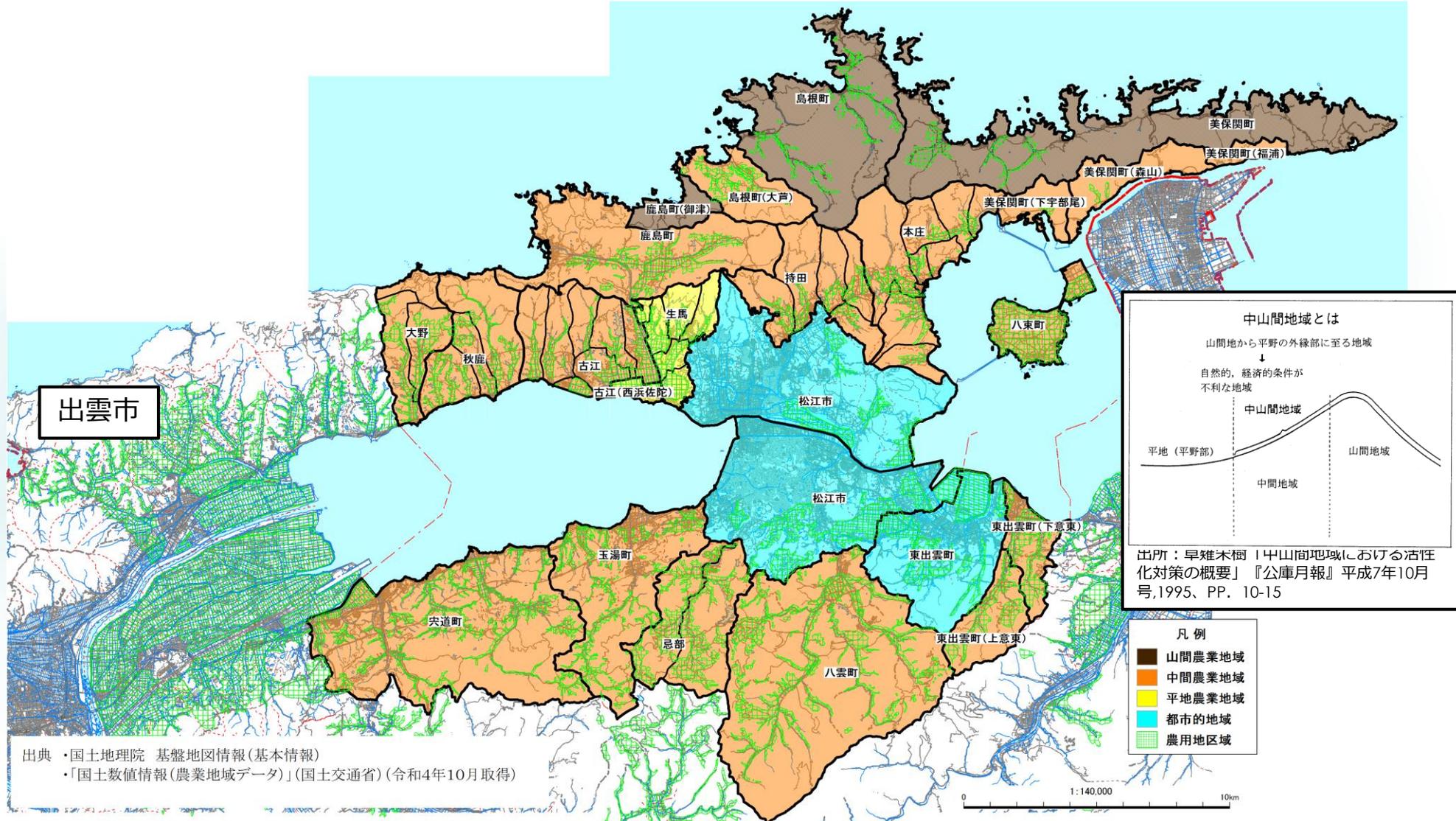


農業地域類型で見た松江市の農業の現状と今後

- ① ほとんどが**中山間地域**に属している
- ② 出雲市と異なり、平地が少なく、谷間に沿って農用区域が広がっている



農作物の生産状況

《米づくりが生産の中心》

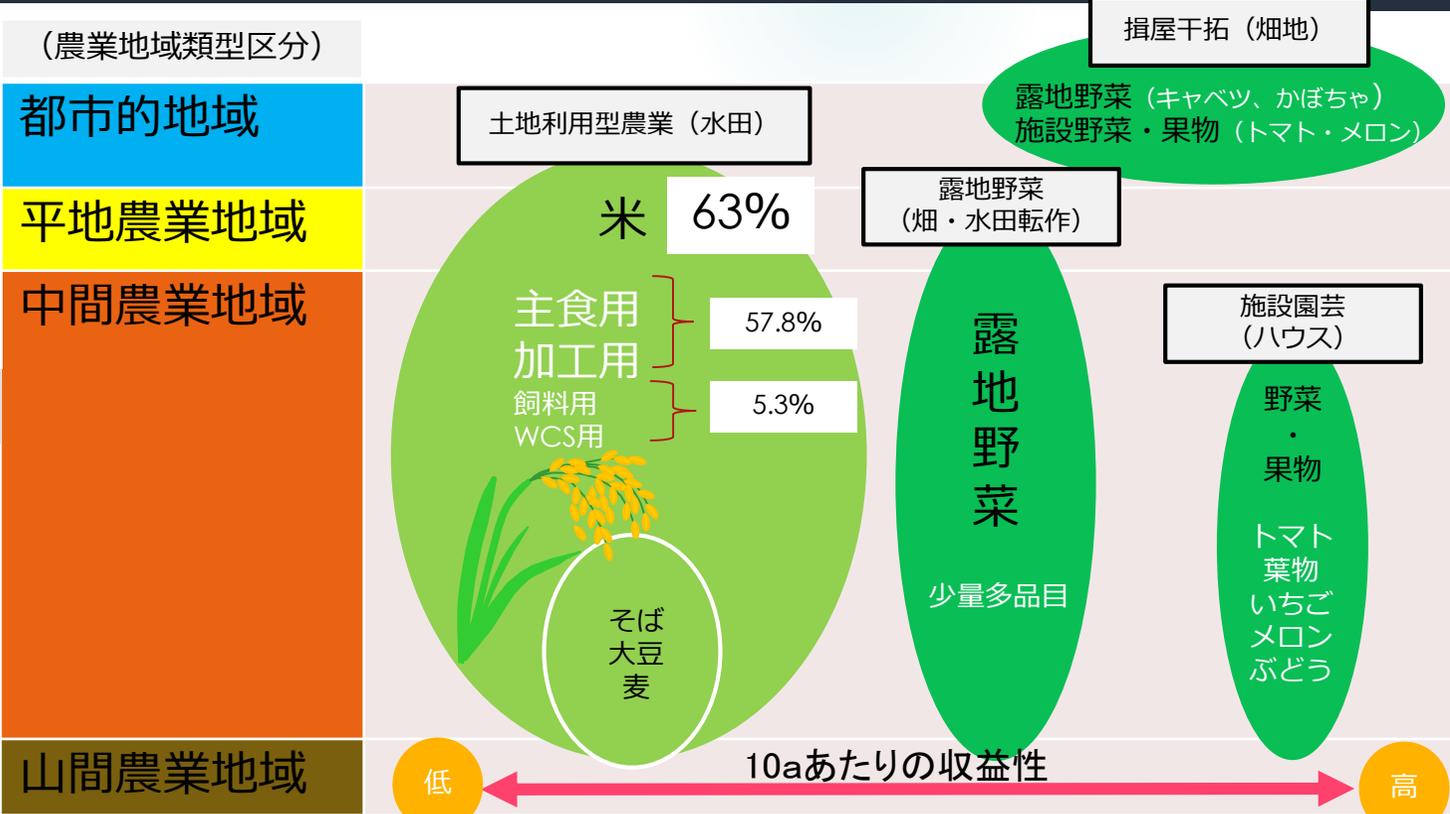
耕地面積に占める水田割合は70%
 気象や土壌条件（湿田）が米作りに適している
 加工用、飼料用、WCS用の米も栽培

《露地野菜の栽培》

畑作物栽培の中心は、揖屋干拓地（200ha）
 その他の畑地は、各地域に小規模に点在
 少量多品目の野菜が生産され、産直を中心に出荷
 水田転作での野菜栽培の割合は、6%と低い（排水性の課題）

《施設園芸（ハウス）》

施設園芸は、揖屋干拓地や市街地の近くに点在
 トマト、葉物野菜、いちご、メロンなど収益性の高い作物を生産



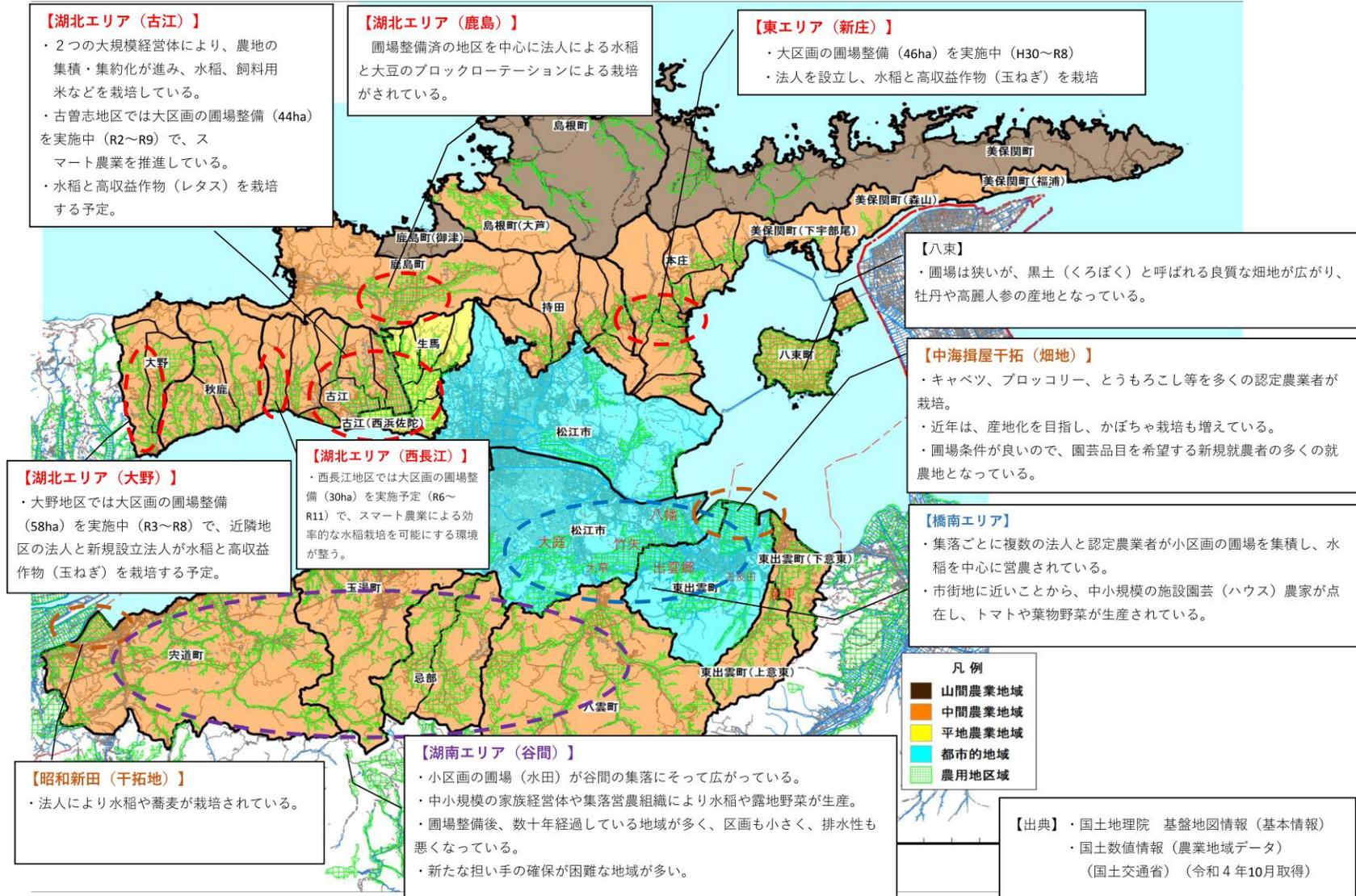
耕地面積	4, 550 ha	出典：R3耕地面積調査 農林水産省
------	-----------	-------------------

内訳	田	3, 190 ha (70%)	主食・加工用米 1,846.94ha (57.8%) 飼料用米 80.55ha (2.5%) WCS用稲 91.75ha (2.8%) そば 135.93ha (4.2%) 大豆 31.98ha (1.0%) 麦 59ha (1.8%) 野菜（水田転作） 193.35ha (6.0%) 自己保全管理、調整水田ほか 1,090.8ha (34.1%)
	畑	1, 370 ha (30%)	揖屋干拓（キャベツ、南瓜など） 200ha (14%) その他地域に点在（少量多品目） 1,170ha (86%)

※作付面積は、R3水田営農計画実績より
 ※%は耕地面積調査の面積に占める割合

地域農業の営農状況

湖北エリアと湖南エリアでは農業地域類型が同じでも、圃場条件や担い手の状況の違いから、地域の営農状況は異なっている。



地域農業の現状と課題に対応した農業振興

《湖北エリア》

現状：古江・生馬・西長江地区は、2つの大規模経営体を中心に農地の集積・集約化が進み、主食用米や加工用米が栽培されている。

大野・西長江・古曾志地区では、大区画（1ha）の再圃場整備が予定されており、スマート農業技術の導入による生産性の高い米生産と高収益作物の生産が期待されている。

課題：地域の担い手が確保されているが、規模拡大により栽培管理の労力増大や圃場ごとの地力の差（収量のムラ）への対応が必要となっている。

方向性：今後はスマート農業技術の導入を促進し、より生産性と品質を高めつつ、減農薬や減肥料など低コストで環境に配慮した農業経営を推進していくことで、若者にとっても魅力ある農業としていく。

《湖南エリア》

現状：湖北エリアと比べ、平地が少なく、小区画であったり不整形の水田が谷間の集落に沿って広がっており、中小規模の家族経営体や集落営農組織により水稻や小規模な露地野菜生産がされている。

課題：圃場整備して数十年経過している地域も多く、耕作条件も悪くなっていることから、耕作放棄地が増え、新たな担い手の確保が困難な地域が多い。特に農村集落においては地域農業とともに地域コミュニティが衰退する可能性がある。

方向性：地域農業の持続性を高めるために、地域性にあった品目の推進や、農村集落における農業の多面的機能を維持するための施策を、安価なスマート農業技術の導入（自走草刈機、ドローンなど）などにより展開していく。

《東エリア》

現状：新庄地区は、以前は荒廃農地が多い地区であったが、大区画の再圃場整備にあわせて、地元で新法人を設立し、水稻と高収益作物（玉ねぎ）を生産する。

課題：圃場整備に併せて設立した新法人の高齢化による労力が不足。

方向性：新法人への雇用就農を支援し、将来にわたり営農できるように高収益作物（玉ねぎ）の生産を軌道に乗せる。

《橋南エリア》

現状：集落ごとに複数の法人と認定農業者が小区画の水田を集積し、水稻を中心に営農されている。

また、市街地に近いことから、中小規模の施設園芸（ハウス）が点在し、トマトや葉物野菜が生産されている。

課題：高齢化に伴う労力負荷が増大し、今後は複数の法人や農業者の広域的な連携が必要。

方向性：湖南エリアと異なり、谷をまたぐ地形的な特徴でないことから、作業機械の共同利用などにより導入コストを下げ、広域的な連携に繋げていく。

また、市街地に近い利便性を生かし、新規就農希望の多い施設園芸（ハウス）を推進する。